

五四以後中國命理學面臨的困境與轉進

Chang, Che-chia
張哲嘉（中央研究院近代史研究所副研究員）

中國自古以來多次翻譯域外的命理知識，並加以本土化，逐步吸納成為中國固有術數的一部分。這個情形到了五四「新文化運動」以後發生了逆轉。和其他傳統學問同時面對西式知識精英的無情鎮壓，中國的命理學界也同樣感受到救亡圖存的強烈需要。若干同情命理的人士採取與中醫類似的策略：一方面將中國命理歸類為「國學」的一部分，同時謀求知識型態的改造與再定義，甚至於尋求與西洋科學相連結的出口。在文類形式上，有別於舊式歌賦、口訣，而且用白話文體書寫的命理書籍開始問世，以便延續對年輕世代的影響力。其次他們得知科學源頭的歐美仍有占星術的生存空間，於是打聽西方同行的生存策略，藉以補強中國命理存續的正當性。至於將命理學「科學化」確有一定難度，卻有一些人開始編輯論命案例，藉以主張論命之理可重複驗證、甚至將其包裝為帶有統計意義的知識。前者如袁樹珊所編輯的《命譜》，其分析較古典的《鄭氏星案》更為嚴整綿密，並彰顯其信憑性。後者如陳果夫從清代姚瀾《本草分經》一書中得到靈感後所創造的「八字先天體格檢查表」，並且蒐集了 610 個樣本而做出推論。儘管上述努力未必是中國命理學得以存活下來的主因，他們的影響卻成為當前命理學無法分割的一部分，今日仍有不少命理愛好者宣稱命理視為一種統計學，也有業者持續累積案例。在這個意義上，今日的命理與中醫相似，表面上都是繼承自古相傳的經典，但實際上都是經過近代化洗禮後的舊瓶新酒。

五四以後に中国の命理学が直面した苦境とその転進

中国では古くから幾度にもわたり、命理に関する域外の知識を翻訳すると共に、ローカライゼーションを施した。そして、それを次第に吸収し、中国固有の術数の一部と成した。こうした状態には、五四「新文化運動」以後に逆転が発生した。命理は他の伝統的な学問と同時に、西洋式のインテリゲンチヤによる無情な鎮圧に直面し、中国の命理学界も他の伝統的な学問と同様に、滅亡を避けて生存を図るべしという強烈な需要に迫られたのである。命理に同情する若干の者は、中国医学の場合に似た策略を採った。まず一方では、中国の命理を「国学」の一部分として分類すると同時に、知識の形態に関して改造と再定義を図った。甚だしい場合には、命理を西洋科学と相互連結するような突破口を模索した。文書の形式においては、若い世代に対する影響力を持続しやすくするため、旧式の歌賦や口訣と異なり、かつ白話の文体で書かれた命理書籍を世に問うことを始めた。もう一方では、科学に立脚する欧米に、なお占星術が生存の余地を有することを知り、そこで西洋の同業者の生存戦略に耳を傾け、それによって中国の命理が存続することの正当性を補強し

た。命理学を「科学化」することに関して、一定程度の困難があったことは確かだが、しかし、幾らかの者は論命の具体的ケースを収集編纂することを始め、それによって、論命の理論が反復的な検証に堪えることを主張した。甚だしい場合には、論命の理論に、統計的な意義を有する知識であるという包装を施した。前者の例として、袁樹珊の編んだ『命譜』がある。同書で行われた分析は、古典的な『鄭氏星案』よりも更に厳正綿密であり、また、それによって同書の信憑性を顕示した。後者の例として、陳果夫が清代の姚瀾の『本草分経』から靈感を受けて創造した「八字先天体格検査表」があり、そこでは 610 個のケースを収集して推論が為されている。上記のような努力は、必ずしも、中国の命理学が生き延びられた主要な要因ではない。しかし、彼らの影響は、今日における命理学の分割不能な一部分になったのであり、今なお少くない命理愛好者が、命理を一種の統計学と見なすと公言しているし、業者たちが論命の具体的ケースを累積し続けている。このような意義において、今日における命理は中国医学と似通っている。どちらも表面上は、古くから伝わった経典を継承しているけれども、しかし実際には、近代化という洗礼を経験した後で、古い瓶に新しい酒を入れたような構造を持ったのである。(水口拓寿訳)